

実践チーム医療論（病棟実習）

責任者・コーディネーター	薬物代謝動態学講座 小澤 正吾 教授、臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授、臨床薬剤学講座 富田 隆 准教授、臨床薬剤学講座 佐藤 淳也 講師		
担当講座・学科(分野)	構造生物学講座、有機合成化学講座、天然物化学講座、衛生化学講座、生体防御学講座、分子細胞薬理学講座、薬物代謝動態学講座、臨床薬剤学講座		
対象学年	6	区分・時間数	実習 34.5 時間
期間	前期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

病院実務実習修了後に、アドバンストな知識・技能・態度を、病棟実習を通して修得することを目指し、小グループ（2名）に分かれて病棟実習を行なう。3日間の病棟実習の後、2日間は問題点を抽出し資料を作成する。全グループが実習を終了した時点で、全体発表・討議を行なう。

・教育成果（アウトカム）

様々な医療スタッフと協働・連携して、患者中心の医療の担い手として診療・治療・ケアを実践するチーム医療に参加できる専門性・実践能力を高めるため、病院実務実習を修了後に、アドバンストな知識・技能・態度を、病棟実習を通して修得する。

・到達目標（SBO）

1. 患者の診療過程を理解し、そこに携わる医療スタッフを列举できる。
2. 各医療スタッフの専門性、役割について説明できる。
3. チームで取組むべき事例を挙げ、医療スタッフ毎に問題点を明確化し、薬剤師が関与できることを列举できる。
4. 各診療科の病棟で繁用される基本的な医療用語や略語の意味を説明できる。
5. 各診療科で扱う典型的な疾病の自覚症状・他覚所見、治療薬の処方意図、副作用や禁忌疾患を説明できる。（☆）
6. 治療のレジメンを把握し、処方された医薬品の治療効果および副作用をモニタリングできる。（☆）
7. 患者や他の医療スタッフとコミュニケーションを適切にとることができる。
8. 実習中に自ら経験した症例の問題点や疑問点を抽出し、解決策を提案できる。（☆）

・ 講義日程

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
全員	7/4	月	1	薬物代謝動態学講座 臨床薬剤学講座 臨床薬剤学講座 臨床薬剤学講座	小澤 正吾 教授 工藤 賢三 教授 富田 隆 准教授 佐藤 淳也 講師	全体説明、および、SGD による実習に向けた各自の目標設定
1	7/15	金	1・2	臨床薬剤学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 1 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
1	7/15	金	3	臨床薬剤学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 1 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
1	7/15	金	4	臨床薬剤学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 1 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
1	7/19	火	1・2	臨床薬剤学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 2 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
1	7/19	火	3	臨床薬剤学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 2 日目：病棟実習 1 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
1	7/19	火	4	臨床薬剤学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 2 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
1	7/20	水	1・2	臨床薬剤学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 3 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
1	7/20	水	3	臨床薬理学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 3 日目：病棟実習 1 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
1	7/20	水	4	臨床薬理学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 3 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
1	7/21	木	1~4	臨床薬理学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 4 日目：担当診療科等で提示された代表的な症例について、疾病の特徴、診断、検査（診断・副作用）、薬物療法等の経過をまとめ、症例報告会の準備を行なう。
1	7/22	金	1~4	臨床薬理学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座	佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教	病棟実習 5 日目：担当診療科等で提示された代表的な症例について、疾病の特徴、診断、検査（診断・副作用）、薬物療法等の経過をまとめ、症例報告会の準備を行なう。必要に応じて電子カルテ等も利用する。
2	7/25	月	1・2	衛生化学講座 臨床薬理学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習 1 日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
2	7/25	月	3	衛生化学講座 臨床薬理学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習 1 日目：病棟実習 1 日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
2	7/25	月	4	衛生化学講座 臨床薬理学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習 1 日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
2	7/26	火	1・2	衛生化学講座 臨床薬剤学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習2日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
2	7/26	火	3	衛生化学講座 臨床薬剤学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習2日目：病棟実習1日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
2	7/26	火	4	衛生化学講座 臨床薬剤学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習2日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
2	7/27	水	1・2	衛生化学講座 臨床薬剤学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習3日目：外来診療や病棟診療に医師とともに同行し、臨床所見、検査所見と診断、治療方針を実地に学ぶ。
2	7/27	水	3	衛生化学講座 臨床薬剤学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習3日目：病棟実習1日目：病気の概念を学び、処方解析を行うとともに、薬の知識を整理する。
2	7/27	水	4	衛生化学講座 臨床薬剤学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習3日目：カンファランスやミーティングに参加し、病院・病棟における薬剤師の役割、チーム医療について学ぶ。
2	7/28	木	1~4	衛生化学講座 臨床薬剤学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習4日目：担当診療科等で提示された代表的な症例について、疾病の特徴、診断、検査（診断・副作用）、薬物療法等の経過をまとめ、症例報告会の準備を行なう。

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
2	7/29	金	1~4	衛生化学講座 臨床薬剤学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	病棟実習 5 日目：担当診療科等で提示された代表的な症例について、疾病の特徴、診断、検査（診断・副作用）、薬物療法等の経過をまとめ、症例報告会の準備を行なう。必要に応じて電子カルテ等も利用する。
全員	9/8	木	3・4	薬物代謝動態学講座 臨床薬剤学講座 臨床薬剤学講座 衛生化学講座 臨床薬剤学講座 天然物化学講座 生体防御学講座 分子細胞薬理学講座 構造生物学講座 有機合成化学講座	小澤 正吾 教授 工藤 賢三 教授 富田 隆 准教授 杉山 晶規 准教授 佐藤 淳也 講師 浅野 孝 助教 錦織 健児 助教 丹治 麻希 助教 阪本 泰光 助教 稲垣 祥 助教	実習に参加した 2 クラス 16 グループの全員が集まり、各グループごとに症例報告を行い、チーム医療に果たす薬剤師の役割について総合的に討論する。

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
推	病気が見える vol.1 消化器 第4版	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2010
推	病気が見える vol.2 循環器 第3版	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,300 円)	2010
推	病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第3版	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2012
推	病気が見える vol.4 呼吸器 第2版	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,200 円)	2013
推	病気が見える vol.5 血液	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2008
推	病気が見える vol.6 免疫・膠原病・感染症	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2009
推	病気が見える vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,800 円)	2011
推	病気が見える vol.8 腎・泌尿器	医療情報科学研究所編	メディックメディア (定価 3,300 円)	2012

	書籍名	著者名	発行所	発行年
推	薬物治療学 改訂第4版	吉尾 隆 他 編	南山堂 (定価 8,800 円)	2015
推	臨床薬剤師必携 内科処方マニュアル 改訂2版	臨床薬学研究会編	南山堂 (定価 2,800 円)	2008
推	今日の治療薬 2016	浦部晶夫ら 編集	南江堂	2015

・成績評価方法

単位取得のためには、全期間の出席が必要である。実習と資料作成時の態度、及び、全体発表の内容などを総合的に判定する。

・予習復習のポイント

・指示が記されていればそれに従うこと。記載がない場合は、担当者の指示に従うこと。
 ・病棟および外来の診療現場での実習になるので、指示された予習・復習項目を確実に実施し体調にも十分注意して臨むこと。

3 学部合同学生セミナー

責任者・コーディネーター	佐藤洋一 全学教育推進機構長		
担当講座・学科(分野)	<p>【医学部】 佐藤 洋一 医学部長・全学教育推進機構長、小笠原 邦昭 教授、伊藤 智範 教授、鈴木 啓二郎 准教授、平海 晴一 准教授、田島 克己 准教授、本多 孝之 講師、高田 亮 講師、相澤 純 助教</p> <p>【歯学部】 三浦 廣行 歯学部長、佐藤 和朗 教授、八重柏 隆 教授、杉山 芳樹 教授、石崎 明 教授、佐藤 健一 教授、岸 光男 教授、山田 浩之 教授</p> <p>【薬学部】 名取 泰博 薬学部長、小澤 正吾 教授、那谷 耕司 教授、藤井 勲 教授、高橋 寛 教授、三部 篤 教授、富田 隆 准教授、西谷 直之 講師、佐藤 淳也 講師</p> <p>【教養教育センター】 相澤 文恵 准教授</p>		
対象学年	6	期 間	前期
区 分	演習	単 位 数	1 単位

・学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Interprofessional Education)の一環として、5 学年まで修得した医学・歯学・薬学の専門知識と経験をもとに、3 学部の学生が症例を PBL 形式で検討する。各症例の診断、病態生理および治療を各学部生で事前に検討しておく。セミナー当日に学部間で意見交換をおこない、それぞれの専門職がどのような観点から病に対しての病者に対する多角的な見方を育てる。

・教育成果（アウトカム）

専門知識を修得した学生が、他の学部学生とともに症例の診断、病態生理、および治療を、患者の立場に立って討議することで、他の職種の見点を知ることができる。また、討議の過程で、自らの職種に対する誇りを持つとともに、他職種を尊敬する謙虚さを身につけることが可能となる。あわせて、専門分野の知識を非専門家に説明することの難しさを実感することで、コミュニケーションスキルの向上を意識するようになる。

・到達目標（SBO）

- 1、医学、歯学、薬学それぞれの立場から、症例患者がどのような病気で苦しんでいるか診断できる、あるいは最終診断に向けてどのような検査が必用か、述べるができる。
- 2、医学、歯学、薬学それぞれの立場から、診断過程、病態生理と治療方針を他職種にわかりやすく説明できる。
- 3、医療職として、患者の今後のケアに何が必用か、列挙できる。
- 4、実際の医療現場に於いて、どのような他職種間のコミュニケーションギャップがありうるか、列挙できる。
- 5、他職種間の評価方法を述べるができる。

・成績評価方法

演習態度・レポート等を総合的に判断する。

・事前学修時間・内容

事前に提示された症例について、各学部の専門分野に関連して病態生理や治療方法、患者への対応等について、教科書や参考書、図書館を利用して調べておくこと。また、学部内で討議して問題点を明らかにしておくこと。これらの作業には、およそ7時間以上を要する。

・特記事項・その他

開催日：平成28年4月9日（土）～10日（日）
会 場：雫石プリンスホテル
対 象：医学部・歯学部・薬学部 各20名

感染症対策薬学

責任者・コーディネーター	微生物薬品創薬学講座 西谷 直之 講師、微生物薬品創薬学講座 奥裕介 助教		
担当講座・学科(分野)	微生物薬品創薬学講座、臨床検査医学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 10.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	0.5 単位		

・学習方針（講義概要等）

医療関連感染 (healthcare-associated infection, HCAI) の制御においてリーダーシップを発揮する感染症対策チーム (ICT) の重要性はますます増している。ICT の一員である薬剤師は、消毒や抗菌薬の適正使用、実地疫学において専門性を発揮することが期待されている。本講義では、HCAI や、ICT についての基本的な理解に基づき、HCAI の予防や抗菌薬の適正使用の知識、実地疫学の実践的な知識の習得を目的とする。本講義を通じて、科学的な根拠に基づき、感染症対策において専門性を発揮できる薬剤師の養成を目指す。

・教育成果（アウトカム）

薬剤師の職能として重要な抗菌薬・消毒の適正使用、抗菌化学療法における TDM の実践、実地疫学についての知識を習得することで、感染症対策において薬剤師としての専門性を発揮できる基盤を形成する。

・到達目標（SBO）

1. 医療関連感染対策の意義を説明できる。
2. ICT (感染症対策チーム) における薬剤師の役割について説明できる。
3. 標準予防策・感染経路別予防策について説明できる。
4. 医療関連感染を起こす病原体 (薬剤耐性菌を含む) を列挙できる。
5. 抗菌薬・抗真菌薬の適正使用について説明できる。(☆)
6. 手術部位感染の予防と、抗菌薬による治療について概説できる。(☆)
7. 尿路カテーテル関連感染の予防と、抗菌薬による治療について概説できる。(☆)
8. 血管内カテーテル関連感染の予防と、抗菌薬による治療について概説できる。(☆)
9. 人工呼吸器関連肺炎の予防と、抗菌薬による治療について概説できる。(☆)
10. 院内結核の対策と、抗菌薬による治療について概説できる。(☆)
11. PK-PD 理論に基づく抗菌化学療法について概説できる。(☆)
12. 感染症治療におけるグリコペプチド系、アミノグリコシド系抗菌薬の TDM について概説できる。
13. 感染症サーベイランスについて概説できる。(☆)
14. 実地疫学による医療関連感染の原因の特定について概説できる。(☆)
15. 感染対策の地域連携を概説できる。(☆)
16. 災害時の避難所等での感染対策について概説できる。(☆)

・ 講義日程

(矢) 東 204 2-C 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/12	火	5	微生物薬品創薬学講座	奥 裕介 助教	医療関連感染・感染症対策の基礎、標準予防策、感染経路別予防策
4/14	木	5	微生物薬品創薬学講座	奥 裕介 助教	医療関連感染の微生物学(薬剤耐性菌を含む)、抗菌薬・抗真菌薬の適正使用
4/19	火	5	微生物薬品創薬学講座	奥 裕介 助教	抗菌薬の TDM, PK-PD 理論
4/21	木	5	微生物薬品創薬学講座	奥 裕介 助教	各種感染の予防と抗菌薬による治療①
4/26	火	5	微生物薬品創薬学講座	奥 裕介 助教	各種感染の予防と抗菌薬による治療②
4/27	水	5	臨床検査医学講座	小野寺 直人 助教	ICT カンファレンスとラウンドの実践
4/28	木	5	臨床検査医学講座	小野寺 直人 助教	サーベイランスとアウトブレイク、実地疫学の実施、感染対策地域連携と災害時の感染対策

・ 教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	抗菌薬マスター戦略 非問題解決型アプローチ 第2版	岩田健太郎 訳	メディカルサイエンスインターナショナル (定価 5,400 円)	2014
参	抗菌薬の考え方、使い方 ver.3	岩田健太郎、宮入烈 著	中外医学社 (定価 4,000 円)	2012
参	薬剤師のための感染制御マニュアル 第3版	日本病院薬剤師会 編	薬事日報社 (定価 5,832 円)	2012
参	感染予防、そしてコントロールのマニュアル-すべてのICTのために-	Nizam Damani 著 岩田健太郎 監修 岡 秀昭 監訳	メディカルサイエンスインターナショナル (定価 4,860 円)	2013

・ 成績評価方法

定期試験 (90%)、授業中の確認問題 (10%) を総合的に判断する。

・ 予習復習のポイント

授業の最後に確認問題を実施する。講義プリント、確認問題を復習すること。確認問題の解答・解説、講義内容の質問への解答・補足説明等は、翌回の講義で行う。
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	Macbook Air Z0RK0005A	1	講義資料作成、講義

海外英語演習

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野 James Hobbs 教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	演習 約2週間
期間	後期		
単位数	2単位		

・学習方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の教師による集中的な語学の授業を受ける。授業は午前中に行われ、日常会話に役立つ表現や文法事項をテーマに扱う。そして、英語を聴く訓練を通して話す能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。図書館、コンピューター室等の施設を利用することができ、いろいろな国々の人々と共にアクティビティに参加することもある。また、英語圏の国の文化、歴史に対する理解を深めるために、さまざまな名所旧跡を見学する。

外国での生活から得た経験を通して豊かな人間性を養い、また国籍にかかわらず相手の立場を理解し、臆することなく自己を表現することによって友好的な国際的人間関係を築くことが望ましい。

・教育成果（アウトカム）

教養教育に求められる豊かな人間性の涵養の一環として行う。

- 1.海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を学び、幅広い視点から人および物事を見ることによって自立の精神を養うとともに、能力・感性を培える。
- 2.英語研修によって日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のための会話能力開発ができる。 (ディプロマポリシー：2, 9)

・到達目標（SBO）

- 1.ホストファミリーと英語で意思の疎通ができる。(☆)
- 2.クラスメートと英語で意思の疎通ができる。(☆)
- 3.教室では間違いをおそれず積極的に発言できる。(☆)
- 4.日本人とだけで集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。(☆)

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

書籍名	著者名	発行所	発行年
登録済の教科書・参考書等はありません			

・成績評価方法

演習態度・レポート等を総合的に評価する。

・事前学修時間

研修先について参考書や図書館を利用して調べておくこと。これらの作業にはおよそ5時間以上を要する。

・特記事項・その他

研修先：英語圏の国（例：イギリス・アメリカ等）
期間：3月の予定
宿泊施設：ホームステイ

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

被災地薬剤師から学び考える「地域におけるこれからの薬剤師のあり方」

責任者・コーディネーター	生体防御学講座 大橋 綾子 教授		
担当講座・学科(分野)	生体防御学講座、地域医療薬学科、臨床医化学講座、創剤学講座		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	講義 6時間
期間	後期		
単位数	0.5単位		

・学習方針（講義概要等）

東日本大震災(以下、大震災)被災地にある本学において、大震災における各地域での医療活動を知り、その経験を地域医療につなげる学びは極めて重要である。本科目では、「災害時から現在に至るまで、被災地の薬剤師は何を考え、どのような役割を果たしているのか」を、実際の薬剤師との交流を通じて学ぶ。更に、震災の経験を次世代に伝えたいという薬剤師の思いを受け止め、学んだことを教訓として「これからの薬剤師のあり方」を一人一人が考える機会とする。

・教育成果（アウトカム）

災害時から現在に至るまで、被災地の薬剤師は何を考え、どのように行動しているかを学ぶことにより、患者や生活者の健康に貢献する地域の薬剤師の役割や、行動を支える使命感を理解する。また、震災の経験を薬学生に伝えたいという薬剤師の思いを受け止めることで、次世代育成が薬剤師に求められる重要な資質の一つであることを意識する。更に、地域における薬剤師のあり方や方向性について自ら考えることで、今後身につけるべき資質や倫理観を明確にする。

・到達目標（SBO）

- 1.震災時並びに震災後の被災地における薬剤師の具体的な活動を列挙できる。(☆)
- 2.震災時並びに震災後に行われている医療活動を列挙できる。(☆)
- 3.生活者や患者の視点から、薬剤師の活動とその意義を捉えることができる。(☆)
- 4.地域医療に携わる薬剤師に求められる資質や倫理観について、自らの考えを述べるができる。(☆)
- 5.震災の経験を次世代に伝えたいという薬剤師の思いを受け止めることができる。(☆)

・講義日程

(矢) 東 205 ゼミナール室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
7/29	金	2	生体防御学講座 EDUCO いわて学び塾	大橋 綾子 教授 井上 和裕 氏	ガイダンス

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
7/29	金	3	岩手県薬剤師会	中田 義仁 非常勤講師	① 釜石における東日本大震災時の薬剤師の活動（釜石方式）について
7/29	金	4	創剤学講座 地域医療薬学科	松浦 誠 講師 高橋 寛 教授	② 東日本大震災における岩手医大医療支援チームに参加して ③グループ討議
9/16	金	5	生体防御学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 地域医療薬学科	大橋 綾子 教授 松浦 誠 講師 那谷 耕司 教授 高橋 寛 教授	学習成果発表と意見交換

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタンダード薬学シリーズ II-1 薬学総論I 薬剤師としての基本事項	日本薬学会編	東京化学同人 (定価 4,800 円)	2015
参	『いのちの砦』 釜石方式に 訊け 釜石医師会 医療継続 に捧げた医師たちの 93 日間	芦崎 治(著)	朝日新聞出版 (定価 1,620 円)	2015

・成績評価方法

感想文(20%)、発表とプロダクト(40%)、受講態度(40%)を総合的に判断する。

・予習復習のポイント

日程については、「平成 28 年度被災地薬剤師との交流バスツアー」（岩手県薬剤師会主催。7/30,31 または 8/6,7 で調整中）の実施に合わせる。「被災地薬剤師との交流バスツアー」に関しては、岩手県薬剤師会に感想文を提出する。
各講義に関する復習（振り返り）やプロダクト作成などの時間を要する。
講義日程の変更等は随時掲示する。

アンチドーピング

責任者・コーディネーター	創剤学講座 佐塚 泰之 教授		
担当講座・学科(分野)	創剤学講座		
対象学年	4, 5, 6	区分・時間数	講義 9 時間
期 間	前期		
単 位 数	0.5 単位		

・学習方針（講義概要等）

スポーツは、トップアスリートだけでなく、娯楽として、また、健康維持や疾病予防の観点から幅広い年代で親しまれている。しかしながら、よい記録を追及するあまりに、くすりに頼るドーピングが問題となっている。これに対するアンチドーピングの活動は世界的に展開されており、様々な競技会で検査が行われている。しかしながら、スポーツ選手や一般の愛好家はくすりに関する知識が乏しく、特に本邦においては日常的に服用する医薬品によるうっかりドーピングが起きているのが現状である。そこで、くすりの専門家である薬剤師が正確な情報をスポーツ選手に与える必要があり、日本アンチドーピング機構は、薬剤師を対象に公認スポーツファーマシストを認定している。本講義では、薬剤師を目指す薬学部生の立場からスポーツと薬の関わりや知識を学ぶとともに考える。

・教育成果（アウトカム）

スポーツ選手の医薬品に対する認識と現状、スポーツ薬理学への理解、ドーピングコントロールの現場を知ること薬学生の立場からスポーツファーマシストに対する理解を深め、臨床現場にとどまらない薬剤師の役割が認識できる。

・到達目標（SBO）

1. スポーツファーマシストの存在と意義を理解できる。（☆）
2. スポーツ薬理学の意義を説明できる。（☆）
3. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。（☆）
4. スポーツファーマシストとしての活動に関し討議できる。（☆）

・講義日程

(矢) 東 207 2-E 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/9	月	5	創 剤 学 講 座	佐塚 泰之 教授	スポーツファーマシストとは
5/16	月	5	創 剤 学 講 座	杉山 育美 助教	スポーツ薬理学
5/23	月	5	創 剤 学 講 座	本田 昭二 非常勤講師	ドーピングコントロール
5/30	月	5	創 剤 学 講 座	佐藤 大峰 非常勤講師 川井 由貴 非常勤講師	スポーツファーマシストになったきっかけと活動

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/6	月	5	創剤学講座	佐塚 泰之 教授 杉山 育美 助教	現場体験 シャペロンとして活動
6/13	月	5	創剤学講座	佐塚 泰之 教授 杉山 育美 助教	PBL (スポーツファーマシストとして何が出来るか、必要か) 服薬指導シミュレーション

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	アンチ・ドーピングを通して考える ー スポーツのフェアとは何かー	(公財)日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)監修	(公財)日本アンチ・ドーピング機構	2013

・成績評価方法

聴講態度 (40%)、レポート (60%) より総合的に評価する。

・予習復習のポイント

教科書・参考図書などは指定しない。講義の際に資料を配布する。
授業に対する事前学修 (予習・復習) の時間は最低 30 分を要する。